

2025年新春 新年のご挨拶

和歌山県遊技業協同組合
理事長 金 貴 如

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様方には、つつがなく新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また平素から、組合の諸活動に対し、ご支援、ご協力いただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

新年を迎え、私も気持ちを新たに身を引き締め、業界の発展に向け、精進する所存でございます。

昨年元日に「能登半島地震」が発生し、復興の兆しが見え始めた9か月後には豪雨による大水害と、2つの自然災害で甚大な被害に見舞われた能登地方。和歌山県としても他人事では無く、近い将来発生するとされる南海トラフ地震や豪雨等の自然災害の発生に備えなければなりません。

パチンコ・パチスロ産業21世紀会では、昨年6月のパチンコ・パチスロ合同祝賀会において「遊技業界のパーパス」を進めるべく「遊びの力で、心を元気に。」を掲げ、業界の存在意義を改めて見つめ直し、言語化するプロジェクトを始めています。

現在、和遊協では和歌山県とタイアップして、約20年前に締結された和歌山県との災害発生時等の支援等の協力に関する協定をバージョンアップしたものにするための検討を行っており、その支援内容に、地域で暮らす方々に「この町にパチンコ・パチスロホールがあって良かった。」と言われるようなコミュニティとして確立する内容とし、「パチンコ産業のパーパス」の一環として進めるほか、地域貢献活動に努めてまいります。

また、現在、「レジャー白書2024」で発表された2023年のパチンコ参加人口は660万人で、コロナ禍を経て離れてしまったファンが未だ戻っていない現状が浮き彫りになりました。インターネット普及により自宅で娯楽を楽しむ方が多くなっていますが、私たちはネット空間では味わえないホールに足を運んでいただき「パチンコ・パチスロが持つ魅力」を最大限に活かし、癒やしと楽しみの空間を提供していかなければなりません。

私たちの業界において、昨年は、一昨年に制定された「広告宣伝に関するガイドライン」に続き、「賞品提供に関するガイドライン」と「貯玉・再プレーシステムに関するガイドライン」が制定され、これらの各ガイドラインを有効に活用することで、お客様により幅広い遊技が提供できることから、パチンコ・パチスロが「大衆に親しまれる身近で手軽な

娯楽」であることを皆様とともに再認識し、ファンの皆様に「余暇に足を運んでいただける空間」となるよう努め、業界全体で一致団結し、遊技業界の発展及び社会的地位の向上が一層推進されるよう取り組んでまいります。

ギャンブル等依存症対策につきましては、皆様方のご協力のもと、一定の成果が認められておりますが、本年1月20日には、トランプ大統領が再就任され、何かしらの影響があるものと考えられ、また、2030年秋に予定されている大阪IRの開業に向け、私たち業界にも更なるギャンブル等依存症対策に関する課題が出てくるものと考えられますので、引き続き依存問題に対する取り組みをお願いいたします。

本年も、私たち遊技業界にとりましては、厳しい情勢が続きます。

今後も、目の前の問題を一つひとつ解決していくため、業界が一致団結してこの厳しい情勢を乗り越えていくよう組合運営に努めてまいりますので、よろしくようお願い申し上げます。

結びにあたりまして、より魅力ある業界にしていくために、組合員各位のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくようお願い申し上げます。